

令和4年11月22日

November 22, 2022

大学院学生各位

To All Graduate Students

2022年度

基盤医学特論 開講通知

Information on Special Lecture Tokuron 2022

題目：慢性腎臓病治療薬の進歩と展望

Title: Recent progress and perspectives on therapy in chronic kidney disease

講師：今井 圓裕 先生

(中山寺いまいクリニック・院長、藤田医科大学腎臓内科・客員教授、愛知医科大学腎臓・リウマチ膠原病内科・客員教授)

Teaching Staff: Enyu Imai, M.D.

(Director of Nakayamadera Imai Clinic, Visiting Professor of Fujita Health University, Visiting Professor of Aichi Medical University)

日時：令和4年12月22日(木) 18時00分より(90分)

Time and Date: December 22 (Thu.), 2022 18:00~ (90 minutes)

場所：Webinar (Zoom)

言語：日本語

Language: Japanese

慢性腎臓病 (CKD) の治療は尿蛋白を合併する患者の場合にレニン・アンジオテンシン系阻害薬を使用する以外はなかった。それが、SGLT2 阻害薬の登場で昨年からは治療法が大きく変わっている。SGLT2 阻害薬は糖尿病治療薬として開発されたが、心血管疾患、特に心不全の発症を抑制することが判明し、慢性心不全治療薬として適応拡大した。さらに慢性腎臓病の進行を抑制することが示され、初めての慢性腎臓病治療薬として2021年10月より使用できることになった。大規模臨床試験が行われた SGLT2 阻害薬はカナグロフロジン、ダパグリフロジン、エンパグリフロジンの3種であるが、その効果からはクラスエフェクトと考えられる。SGLT2 阻害薬は糖尿病性腎臓病 (DKD) のみならず、非糖尿病 CKD 患者にも有効であることが示されている。今年11月に発表された EMPA-KIDNEY では、GFR20mL/min/1.73m² までの CKD 患者で有効であることが示されている。ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬は尿蛋白を減少させることが知られているが、フィネレノン は DKD 患者の腎機能低下を抑制した。これらの新しい CKD 治療薬以外に、バルドキシロンメチル、可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬、エンドセリン拮抗薬などが開発中である。これらを含めて CKD 治療薬の展望を概説する。

※Zoomにて開催します。前週金曜日に学務課よりメールで送信される通知を確認してください。 This lecture is held through Zoom. The URL for class registration of this lecture will be announced by the e-mail “【med-all】 RKR&TPROlectures Scheduled Coming Week” sent on Friday of the previous week.

※(事前の申込みは不要です。No Registration Required.)

※関係専門分野・講座等の連絡担当者：腎臓内科学 加藤 規利 (内線 2192)

Contact: Noritoshi Kato, Division of Department of Nephrology (Ext. 2192)